

# 育てる会ニュース

# 祝 100号

ニュース

みんなでつくろう！  
しまやけべいせき  
下宅部遺跡はっけんのもり

第100号【'09-12月号】

発行：下宅部遺跡  
はっけんのもりを育てる会  
東村山市諏訪町1-6-3  
TEL：042-396-3800  
発行日：平成21年12月11日

## ニュース「下宅部遺跡はっけんのもり」 100号に想う

副代表 鹿村光俊

「はっけんのもりを育てる会」とは？  
下宅部遺跡を後世に残すためにつくられた遺跡公園「下宅部遺跡はっけんのもり」(所在地 東村山市多摩湖町4丁目3番地)の管理・運営と、下宅部遺跡および考古学一般についての知識を広めることを目的としています。  
そのための具体的な活動としては、「下宅部遺跡はっけんのもり」の除草・清掃、縄文体験を行う開園周年イベント「お誕生日会」と「東京都文

化財ワイーク」参加イベント。縄文土器づくり教室とその時に作成した土器を焼く縄文土器の野焼き。日帰り研修見学会と宿泊研修。はっけんのもりの生物調査や縄文食の材料となるトングリ拾い。遺跡に関する専門家の先生を招いての講演会。そして会の運営のための会議などを行っています。また、有志による土器部会・ファンギン部会があり、小学校への出前授業のお手伝いや、はっけんのもりでの案内も行っています。

100号記念の原稿依頼を受け、今あらためてニュースのスクラップブックを開いてみる。

記念すべき「創刊号」は平成十二年十一月十五日発行。タイトルは「しもやけべ遺跡公園」で、A4版4ページの紙面には三十名が参加して開かれた第1回ワークショップの記事を中心に、当時の希望と不安が交じり合った討議の内容を伝えていきます。

その後1年間のワークショップで歴史館職員の皆さんによる遺跡発掘現場での勉強会、公園の計画作りへの参加などで、私たちも次第にこの遺跡の重要性を認識すると同時に、この公園をどう守り、どう活用するか…。大きな課題をかかえることになりました。

そして平成十四年五月二十五日、これらの課題を乗り越え地域に愛される公園作りをめざして、市民が中心になった「しもやけべ遺跡公園を育てる会」が発足しました。

一方、公園の工事が着々と進行する中、公園の正式名称を市民から公募。市民団体の方々の協力も得て「下宅部遺跡はっけんのもり」に決定。同時に「ニュー」も平成十五年九月二日発行の第28号から公園の正式名称と同じタイトルに変わりました。

そして平成十六年五月二十二日、念願の第一回お誕生日(開園日)を迎えることが出来まし

た。ニュース第37号には当日の式典をはじめ、数々のイベントに参加された、たくさんの方の皆さんが楽しめた様子や、ここまで協力してきた会員の喜びの音が掲載されており、当時の感動が蘇ります。あれから五年の歳月が流れました。



はっけんのもり開園 (2004年)

動が文化財ウィーク2006で東京都知事賞を受賞したこと、日本の歴史公園百選に認定されたこと、楽しかった研修会のことや雑草やトイレの管理問題なども記録、提議してきました。

また育てる会のメンバーもぜひぶん入れ替わりしましたが、変わらないのは「貴重な文化財を守り、活用する」という理念でしょう。これからも、新設された「八国山たいけんの里」の活用とともに、一人でも多くの市民の方々と喜びを共有できる情報誌になることを期待します。

ニュースの発行に携わられたメンバーに心から敬意を表します。

## 会報百号、樹々は育つ

石橋康夫

「みんなできつこうつ、下宅部遺跡はっけんのもり」という長い名前の私たちの会報も百号を迎えるという。「はっけんのもり」そのものを現在のような、東村山のごの一般の公園と比較しても立派な公園に育ててきた育てる会の関係者の努力もさることながら、その育てる会を支えてきたこの会報を百



コナラの紅葉 2009.12.7

号まで続けてこられた広報担当の皆さんとそれを支えて貰った歴史観の関係者の皆さんに敬意を表すとともに、今後ともよろしくと申し上げたい。私も「はっけんのもり」の植栽管理と植物の紹介の面で及ばずながら私なりの努力をしてきたつもりである。

一般に植物を植える時はその土地の特性や風土に合ったものを植えるのだが、「はっけんのもり」を造るときは「下宅部遺跡出土植物」にものをさしを置いた関係もあり植えた場所によってはすく枯れたものもある。すく枯れ

たものは造園業者が、補植するのであるが、例えば「イヌガヤ」の場合、近郷では珍しい植物であるため調達がつかず「代わりのもので勘弁してください」ということで「マテバシイ」になってしまったものもある。

そうした中で多くの植物はすくすくと育ち実も付けている。桑の実を近所のわんぱく坊主が木に登って食べているし「コナラ」「クヌギ」にも立派なドンクリが実り「オニグルミ」も今年は二十数個の実を拾い植えた。「ムクノキ」もその干柿の味の実をつけ、小鳥たちだけでなく人間も拾って食べている。おそらく下宅部の縄文時代の味と同じだろう。初夏、その白い花を一

斉に付ける「エゴノキ」もお手玉の中に入れるのに手頃な固い実を一杯に落としていく。そして、何よりも「イヌガヤ」である。その枝を採り、弓を造るところまではまだ無理であるが、その実生苗の二年ものを今秋、「たいけんの里」の「弓矢たいけん場」の脇線路側のところに十一本を植えた。ただ、この「イヌガヤ」から弓を作れる時私の命のほっかがあるかどうかはあぶない。

最後に「はっけんのもり」の植栽管理についての歴史館からの提案につい

てであるが「下宅部遺跡から発見された植物を主体とする」「縄文の森と気持ちのいい原っぱ」の景観イメージ。「外来種の除去」「薬剤は使用しない」ということにも賛成であるが、芝生について「理想的には在来種の野草との混生」「現実的にはクローバー等の外来種を含めた背の低い野草との混生」とある。その「現実」を「実現」するためには毎月の除草の時にクローバーを含めた野芝以外の植物「オヒシバ」「メヒシバ」「オオバコ」等を取り続けることであることを申しあげておきたい。

## 今年を振り返って

岡部和之

ふと、振り返って見ると、季節は、もう師走。早いもので、正会員に成つてから約7ヶ月が経とうとしている。

その間に自分は何をしたのだろうか？ 唯、6月の研修見学会と9月の宿泊研修に参加しただけで、メンバーの皆さんが、熱心に汗塗れあせまぬれになつて除草・清掃作業をやったり、定例検討会議や、将又はたまた、縄文土器部会やアンギン

部会、等々に、予定が入っていると  
理由で出席できず、他のメンバーさ  
んに多大な迷惑をおかけしていると思  
うと、頭が下がります。特に、11月3  
日(土)の文化の日の「はっけんのも  
りへようこそ! 2009」に参加が出  
来なかつた事が悔やまれます。

「はっけんのもり」や「たいげんの里」  
をもっと皆に知ってもらおうと、メン  
バーさん達は袖を捲(まく)って準備し、各担  
当部署で奮起なされた事を思うと、申  
し訳ないものがあります。来年の『下  
宅部遺跡はっけんのもりの6歳のお誕  
生日会』には、ぜひ出席したいと思っ  
ています。宜しくお願いします。

話は変わって、未だに職員さんやメ  
ンバーさん達の顔と名前が一致しませ  
ん。情け無い限りであります。(顔と  
名前が一致している人は、千葉さん、  
宮澤さん、石川さん、杉山さん、栗山  
さん、等々位しかまだ分からないので  
す。)もつと多くの職員さんやメンバ  
ーさんの名前と顔を一致させたい。一致  
しない人には、大変申し訳なく思いま  
す。出来るだけ早く覚える様にします。  
とつと、今年も押し迫ってしまし  
たが、今回の「ニュース・みんなでつ  
くろう! 下宅部遺跡はっけんのもり」  
が、今号で記念すべき第100号になるん

ですよね!! 御目出度う御座います。こ  
れも偏(ひとへ)に、職員とメンバーさん達の努  
力の賜物(たまもの)だと思えます。これからも、  
150号、200号と回を重ねていける事を、  
私は願っています。

では皆さん、まだ少し早いです、  
「I wish you a merry Christmas !  
& A Happy New year !」

それでは、良いお年を...

## 初めての紙芝居

金山由美

はっけんのもりニュース、もう100号  
になりましたか.....

振り返ると、6年もの歳月が流れて  
いるんですね。覚えていた事といえ  
ば、初めての紙芝居。読み手の代役で  
急ぎよ日本〇一本で雇われた私でした  
が、人前に出る事が苦手だったので、  
当日はかなり動揺しておりました。(皆  
さんは普段通りに見えたかもしれませ  
んが。子どもの頃見ていた紙芝居の  
おじさん(時代がばれたあ!)を必死  
に思い出し、枯れるほどの大声を出し  
て読み手をやっていました。(あー! 一  
行とばした!)とか、(この字なんて

読むんだっけ?? と忘れて!) など  
と心の中で悪戦苦闘の末、何とかおわ  
らせたのは忘れられません。いまだに  
大ボカをしますが、それでも「ちちそ  
うに舌鼓み」を「ちちそうに舌打ち」  
という間違いに「ちやうわい!」とい  
うツツミをいれる余裕は生まれまし  
た。できたらもつと会の活動に参加を  
したいのですが、時間の余裕なく皆さ  
んには大変申し訳なく思っています。  
また、次回の紙芝居で読み手がいない  
ようでしたら、今度は日本〇二本で  
ね! 千葉さん!

## 野焼きに参加して

重山由枝

自分たちで作成した縄文土器に焼き  
火の回りで予熱を与える時も、土器を  
中心に置いて回りを焼き火で囲む時  
も、学芸員の方や会員の方は、皆が  
作った大切な土器であるからという思  
いで、土器が割れないように一つ一つ  
慎重に扱っておられました。その様子  
に重なるように、かつてのことが私の  
脳裏をかすめました。

私は第一回目のワークショップから  
参加させて頂き、学芸員の方々の始め気  
持のよい素晴らしい方々との出会い  
があり、楽しい気分での活動をさせてい  
ただきました。ワークショップから引  
き継いで「下宅部遺跡はっけんのもり  
を育てる会」が発足するにあたって、  
第一回目の会議から一人一人の意見を  
きちんと聞き、丁寧に説明され、納得  
できる方向に進んでおりました。

下宅部遺跡についての講習会では、  
私のように知識が貧弱で縄文時代のい  
ろはのいの字くらいしか知らない会員  
に対しても、学芸員の方は分かりやす  
く丁寧に御指導して下さいました。ま  
た、会員の方も知識が豊富であつても



縄文紙芝居 2007.5.20



秋の野焼き 2009.11.21

同格の仲間という意識で親切に教えて下さり、それはそれは有り難い気持ちで学ぶことが出来ました。  
当時から、育てる会は学芸員の方が一つ一つの土器を丁寧に作り上げるがごとく、一人一人の会員を大切にされていた「会」です。

学芸員の方々が相当なエネルギーと時間を費やしながらか切に育てておられる「育てる会」を、会員の皆さんと共に微力ながら私も守らせて頂きたいと思っております。

野焼きでは、どんなに慎重に扱ったつもりでも、残念ながら割れてしまっ

た土器がありました。「育てる会」は土器のように、いとも簡単に割れることなく、会員皆の和と支え合う力で頑強に大きく育つであらうことを願いながら、燃えさがる炎をみつめておりました。

## はっけんのもり100号

高縁慎吉

会員になり、すごく広範囲の勉強をさせてもらってきた。

各地の歴史館の視察旅行による知見もその一つであるが、ふるさと歴史館、はっけんのもり、八国山たいけんの里で行った「火起こし道具づくり」である。勿論予算も少なく、補修が中心ではあるが、壊れたものを修理するため、道具のもつ欠点もわかる。

補修道具さえ揃ってればと悔やむこともあるが、時間は無限にある。アイデア勝負である。他のボランティアの助言も大切、貴重である。

修理できたもので、来館者の親子に喜んでもらえれば幸いである。縁の下の力持ちで有ればよいと感じている。

## 漆掻きの痕跡がある杭 〜収蔵庫と調査のお話〜

安田幸世

11月のある日、1本の漆掻きの痕跡がある杭を、たいけんの里2階の収蔵庫で発見しました。今まで下宅部遺跡から出土した漆掻きの痕跡が残る杭は43本でしたが、今回の発見で44本になってしまいました。やっと43本だと覚えた方には申し訳ないですが、44本にしちゃいました。

発見した当日は千葉氏と2人、たいけんの里2階の収蔵庫で下宅部遺跡の出土品の整理を行いました。出土品の入って居る天箱を順番通りに並べ変えている作業中に事件は起こったのです。見つけた瞬間の状況を簡単に表してみると、

安田「千葉さん、これ漆の掻き傷？」

千葉「ん？本当に漆？ないよ〜」。

安田「これって……」。

二人「……沈黙の時間」

千葉「漆じゃん〜」

という具合に44本目は発見されちゃったのです。あえて言うなら再発見とも言えますか。なぜなら収蔵庫にある



44本目の漆掻き傷を持つ杭

といつことは1回発掘されて発見されているはずだからです。

これまでの話で疑問に思う人がいると思います。整理？発見？もつ下宅部遺跡の発掘調査が終わって6年半経っているよね。まだそんなことやっているの？って。そうですね。まだやっているのです。

下宅部遺跡が発見されたのは平成7年で、歴史館がオープンしたのは平成8年です。歴史館の計画段階では下宅部遺跡が発見されることは考えられてなく、市内に遺跡が発見されても約80万点の遺物が一気に出土するとは

考えられてなかったんでしょね。たぶん。

下宅部遺跡から発掘された出土品は「八国山たいけんの里」ができるまでは歴史館のあらゆる場所に詰められていたんです。すごい状態でした。引越し作業が今年の3月にありました。歴史館ロビーに展示してある丸木舟をはじめとして残っている物もあります。が、ほぼたいけんの里に運び込まれたのです。引越し業者さんは整理整頓して運んでくれなく、指定した場所に置くだけです。貴重な出土品は学芸員さんが自ら運んでいました。運ばれた膨大な出土品を今頑張つて出土品の再確認をしながら整理整頓しています。ちなみに整理は気が遠くなる時があります。出土品多すぎたい。

ま、整理整頓しているおかげで44本目が発見しちゃったわけですが、ここでも疑問に思う人がいるかもです。調査は終わったんじゃないの？だって発掘したじゃん。そして最初にしっかりと調査してなかったの？って。

調査つて発掘するだけではないのです。発掘は現場での調査であり調査の一部なのです。発掘する場所を見つけることも調査です。発掘後の出土品を整理、調べることも調査になります。

調査の次の段階が研究となるのです。調査がなければ研究もできないのだ。発掘調査中に出土品が出た時に記録はとめておきます。資料が膨大になればなるほど次の調査段階になかなか進めないのです。調査中、1人で気づけないことは多いです。何回も確認することです。新しい発見が生まれるのです。今回みたいに。見つかったしまった、見つけてしまった文化財等は調査をする可能性がある秘めています。技術が進歩すれば、新しい考え方があれば何か新しい発見があるかもしれないのです。結構たればの世界だと、私は思っています。ちなみに調査を他に例えるなら、

同じ場所に行っても、気候、自分の感情、人数が違っただけでも違った気持ちになれる。調査もそのようなことと同じなのかもしれません。さて話がずいぶんとそれてしまいましたが、ここで話を戻します。発見された漆掻きの痕跡がある杭は、現在年代測定調査をしてもらっています。調査の結果はまだ出ていませんが、何か新しいことが分ければ、下宅部遺跡の今まで言われていたことが変わってしまうかもしれない、という可能性を秘めています。どうなるかは現在進行中の調査の結果を待つていただきたいと思えます。何か分ければまた報告をさせていただきます。

最後にみなさん、今年の1月号であるニュースの90号を覚えていますか。私は10月まで忘れていました。一面に「今年は下宅部遺跡を再評価する年にします」と記述されていました。みなさんは下宅部遺跡を再評価してみましたか。私は今評価中です。12月になりましたが、まだ1年は終わっていません。まだ評価ができてない人も間に合うと思います。私はたいけんの里に、歴史館に、そしてはっけんの里に行つて評価してみても、下宅部遺跡ですごくいいんだなあと思つてみたいです。

「ニュースみんなでつくろう！下宅部遺跡はっけんのもり」

# 100号を記念して

八国山たいけんの里 石川正行

平成16年5月、「下宅部遺跡はっけんのもり」が誕生して今年で5周年。「下宅部遺跡公園づくりワークショップ」が平成12年10月からスタートしましたので、そこから数えると今年で9年目を迎えるわけです。この間、ワークショップやイベントに参加された多

くの皆さまにまずはお礼申し上げます。特に公園づくり、そして開園後の維持管理および運営に一緒に汗を流して来て下さいました「はっけんのもりを育てる会」のみなさまには、感謝してもしきれないくらい、支えていただいております。改めてお礼を申し上げます。

さて、今回「ニュース100号」という節目を迎え、また今年5月には「八国山たいけんの里」もオープンし、さらなる発展が期待される「下宅部遺跡はっけんのもり」の活動について、一個人として所信を述べさせていただきます。思います。

そもそも私が下宅部遺跡公園づくりワークショップを立ち上げたきっかけは、もちろんすばらしい遺跡である下宅部遺跡を多くの方に知ってもらいたいという純粋な気持ちからです。今まで多くの説明会や展示会、発表会、書籍などでも遺跡のことを伝えてきましたが、私は、こうした遺跡の内容を研究者や好事家向けに突き詰めた研究内容を伝えるのではなく、もっと身近にいる方々、とりわけ子どもたちにもわかりやすく伝え、「気づいてもらいたい」「そしてよければ」関心を持つきっかけになってほしい」との想いをもって臨んできました。そのひとつの表現形態が「遺跡公園をゼロからみんなでつくろう！」という発想につながりました。

そして実際にワークショップを行なった結果、皆さまとともに、形あるものとして「はっけんのもり」を誕生させることができたことは、大きな喜びでした。この経過の中で常に意識していたことは「みんなでつくる」という気持ちです。そのためには意識や情報の共有はもちろんですが、何より自分も含めて「楽しいと思える」ことが大切であったように思います。  
ワークショップ以降、開園するまで

至らない面も多々あったものと思いますが、みんなが導き出した「成長する遺跡広場」というキーワードはとても好きです。このキーワードこそが「下宅部遺跡はっけんのもり」および「下宅部遺跡はっけんのもり」を育てる会の中軸にあつてゆるぎないものであると思つていきます。このキーワードのおかげで、既成概念にとらわれない遺跡公園の管理運営が可能であり、逆に言えば可能性がものすごく含まれているわけです。

現在は残念ながら直面する現実的な問題の対応に追われてしまいがちですが、本当に目指すべき「はっけんのもり」のあり方は、遺跡そのものが教えてくれているとおり、時代ごとに人々の関わり方によつて姿が変わつていく場所が「遺跡」であるように、現在を生きるわれわれも、「はっけんのもり」という場所に関わり合うことで「遺跡」を作つていく。人と人、人と地域をつなぐことのできる場所としての成長なのではないでしょうか。

ですからそのためにも地域の皆さま、そして育てる会の皆さま、これはお願いになるのでしょうか、まずは改めて「下宅部遺跡」のことを知ることははじめませんか？「下宅部遺跡

はっけんのもり」や「八国山たいけんの里」には、そのきっかけになる機会がたくさんあります。

そして「知る」と「次にできる」とは「遺跡を守る」ことです。どんなに簡単なことでもいいのです。草むしりやゴミ拾いだけでなく、「遺跡が眠っている場所だ」と意識するだけでも、遺跡を守っていることにつながると思っています。この意識こそが地域への愛着の第一歩であり、そして過去の遺産を守り未来につなげているという「地域の誇り」になると思っています。

その誇りを持って『日本の歴史公園100選』に恥じない、素敵で温かみのある、「活きた遺跡広場」としてはっけんのもりを、みんなが楽しく「成長」させていきますか？



### 育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

- 正会員：会費年間1200円
- 通信会員：会費80円切手12枚
- お申し込み：ふるさと歴史館

☎042(396)3800まで

### 育てる会

#### 今後の予定

- 12月19日(土) 午後1時30分から  
第92回育てる会「検討会議」  
(ふるさと歴史館)
- 12月24日(水) 午後1時30分から  
アンギン編み(八国山たいけんの里)
- 12月26日(土) 午前9時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 1月9日(土) 午前9時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)  
※雨天の場合は16日(土)に延期
- 1月14日(水) 午後1時30分から  
アンギン編み(八国山たいけんの里)
- 1月16日(土) 午後1時30分から  
第93回育てる会「下宅部遺跡講座」  
(ふるさと歴史館)
- 1月23日(土) 午前9時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)  
※雨天の場合は30日(土)に延期
- 1月24日(日) 午後1時30分から  
縄文土器作り(八国山たいけんの里)
- 1月28日(水) 午後1時30分から  
アンギン編み(八国山たいけんの里)
- 2月3日(水) 午後7時30分から  
定例検討会議(ふるさと歴史館)